

豊中市立文化芸術センター について

豊中市魅力文化創造課 林 史洋



オープン当初から好評の声

- ▶ 大小ホールの音響
- ▶ 木材の素材を活かした内装
- ▶ 駅からのアクセス
- ▶ 諸室が豊富で使い勝手が良い
.....など

- ▶ 大ホール・・・80%以上
- ▶ 小ホール・・・100%
- ▶ 中ホールは今回の建築部分ではないが、新設部分に呼応するように利用率が上昇、70%ほどから80%以上へ
- ▶ オープン2年後の2019年3月に、通算来場者数100万人を達成



「豊中ならではの」の事業展開の例

▶ 指定管理者（JCD・日本管財・大阪共立によるグループ体）による事業

○とよなかARTSワゴン

とよなかARTSワゴン ショーケース 第8

LAST WORKS

大阪音楽大学
ミュージックコミュニケーション専攻

とよなかARTSワゴン

人生の終着点から
見えた景色とは

指揮 藤井誠太郎
ピアノ 角野斗

2022
12
8

豊中市立文化芸術センター 小ホール

全席自由 一般 1,500円 (club CAT 1,200円) U25 500円

チケット情報
公演期間 2022年10月6日(水)～10月12日(火)

プレイリスト
豊中市立文化芸術センター チケットオフィス 06-6841-3000 (10:00-19:00 月曜休)

○センチュリー豊中名曲シリーズ

ベートーヴェン
交響曲 第9番「合唱付き」

指揮 藤井誠太郎
ピアノ 角野斗

修復する “歓喜”

センチュリー豊中名曲シリーズ Vol.24

12.11

トキイベント
大友良英の「アナーザー第九」を聴く

豊中市立文化芸術センター 小ホール

全席自由 一般 1,500円 (club CAT 1,200円) U25 500円

センチュリー豊中名曲シリーズ Vol.25

100年後の 楽しみ

指揮 藤井誠太郎
ピアノ 角野斗

2023.3.18(土)

15:00開演 (14:15開場)

豊中市立文化芸術センター 大ホール

トークイベント
「100年後の今、ミレニアル世代の2人が語る」

豊中市立文化芸術センター 小ホール

全席自由 一般 1,500円 (club CAT 1,200円) U25 500円

「豊中ならではの」の事業展開の例

▶ 豊中市による事業

○小学生・中学生舞台体験事業「ホールでオーケストラ♪」



コミュニケーションロビー の活用

- ▶ 2021年4月にリニューアルオープン
- ▶ 誰でも利用できる空間
- ▶ 注文しなくてもOK
- ▶ フードの持ち込み可



設計趣旨

市民の活動と体験をつなぐ場所

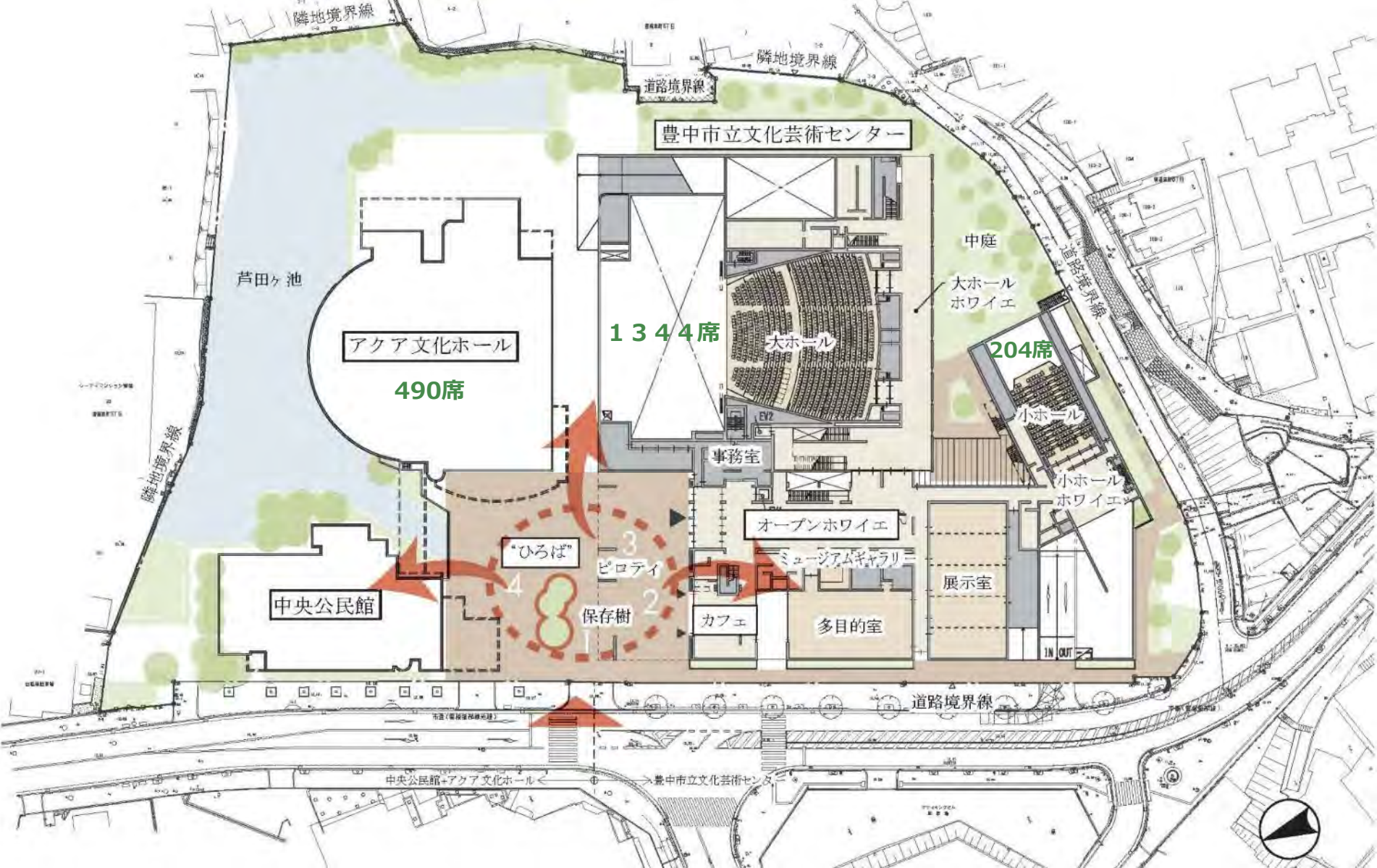
株式会社日建設計 江副敏史

1. “ひろば”に集まる
2. 小さくつくる
3. 構造の強さを積み上げる（国内初の大規模R M造）
4. 自然の光が素材感を引き出す
5. どこでも美術館で博物館そして劇場
6. 光・風・水・緑・土による環境共生
7. 無垢の杉を重ねる大小のホール



豊中市立文化芸術センター 建築概要

面積	建築：6624.67㎡ 延床：13425.30㎡
工程	設計：2011年12月～2012年12月 施工：2013年9月～2016年8月



1. “ひろば”に集まる

隣接するカフェやオープンホワイエを介し自然に建物奥へと引き込まれる

既存施設である490席のアクア文化ホールと大小の集会場・会議室からなる中央公民館とつながる“ひろば”を計画することで、相互の利用と補完を促し、より多くの市民が集いつながる施設群となった。

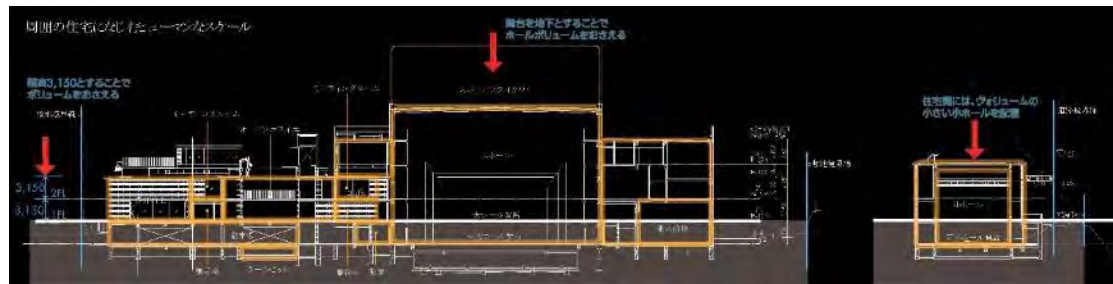
アクア36年 緑地
保存樹 ピロティ



2.小さくつくる

周囲の住宅になじむヒューマンなスケール

従前の公共ホールに見られがちな威風を排除した。
1・2階の階高3,150mmとし、大小ホール舞台を地下とすることで建築高さを抑え、住宅側にボリュームの小さい小ホールを配置することで周辺環境との調和を図っている。



分節化 ホールの形 コスト180万 平面もコンパクト



2.小さくつくる（階高3,150mmの親密な空間）

低い階高が上下の移動を促し交流の密度を高める

階段 様子 親近感



3. 構造の強さを積み上げる（国内初の大規模RM造）（Reinforced Masonry）：鉄筋コンクリート組積造

躯体そのものが内外装材として機能するプリミティブな構造形式

RM壁をオープンホワイエなどの低層部の耐震要素とし、コンクリートスラブの化粧打ち放し天井で素材感を統一することで、構造躯体をそのまま意匠デザインとしている。

内外装＝構造躯体（5万個のブロック） レンガ建築 素材の数



3. 構造の強さを積み上げる

(構造体かつ内外装材である組積壁)

±3mmの凹凸をつけながら積み上げ、ブラストの強弱を調整することで変化する素材感

アースカラーのRMブロック表面にかけた数種類のブラスト処理は、機械に通す速度を変速させることでブラストの強弱を調整している。

また±3mmまでの凹凸をランダムにつけながら積み上げることで自然光を受けて陰影が生まれ刻々とその表情を変えていく。

ブラスト コンクリートと木 その他は黒



4.自然の光が素材感を引き出す

トップライトと中庭から自然光が溢れる、回遊するオープンホワイエ



4.自然の光が素材感を引き出す

自然光のスポットライトを浴びるオープンホワイトは子供たちのステージ

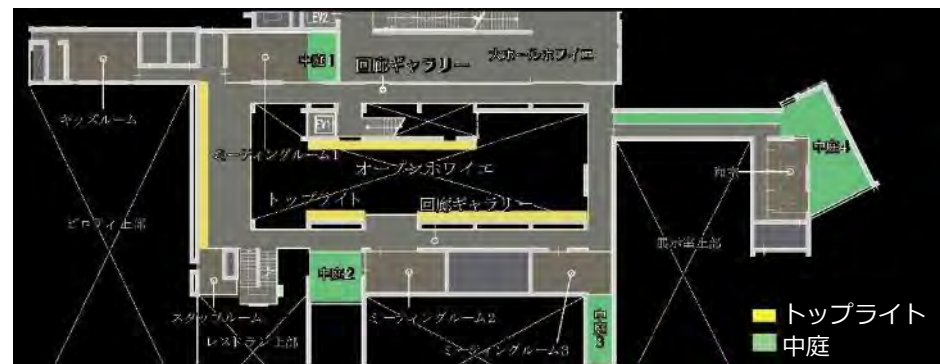
建築の素材としてはRMブロックと木材に限定しその素材感が引き立てられることを目指した。トップライトや光庭から溢れる自然の光はRMブロック壁面に刻々と変化する陰影を映し出し、空間のどこにいても時間の流れを感じることができる。

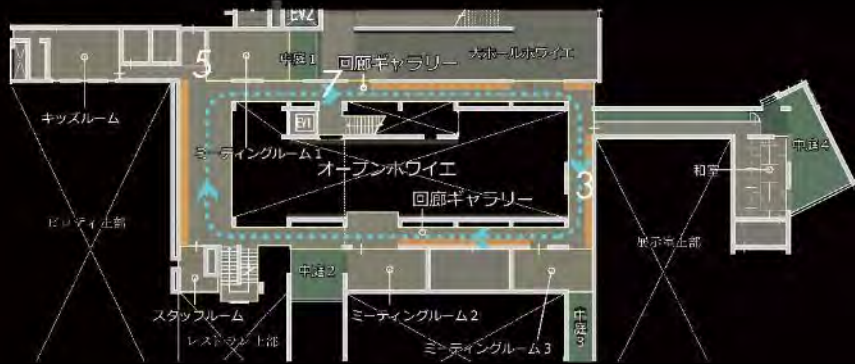


4.自然の光が素材感を引き出す

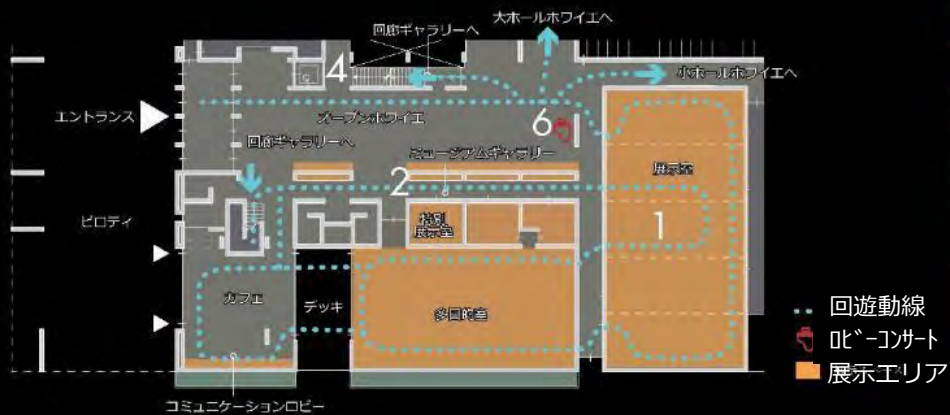
中庭を介し、すべての諸室に緑と光を届ける

公共性の高い場所と、専門性の高い諸室との間にある「中間領域」をギャラリーやロビーコンサート・ワークショップなどにも活用できるようにすることで、多様なアクティビティが充填され目的がなくてもそこに長居できる居心地の良さを生んだ。





2階ギャラリー廻り平面図



1階オープンホワイエ廻り平面図



父の芸術作品が現れ展示室



展示室に併置されたミュージアムギャラリー



5. どこでも美術館で博物館そして劇場

回廊ギャラリーかつ、回遊性のある一連の展示空間

訪れる人が文化芸術活動に自然に触れることができるように空間をつなぎ回遊性を与えて、カフェ利用客や散歩ついで立ち寄り客なども気づけば多様な文化芸術活動に触れられる建築とした。

マダカネツメは30-50万年前に生息していた体長約メートルの大型のツメである。その化石は1964年に大阪大学豊中キャンパスで新校舎建設現場から出土した。化石は大阪大学に保存・展示されており、ここではレプリカ標本を展示している。豊中市のキャラクター「マダカネくん」として同案化され市民生活に親しまれている。



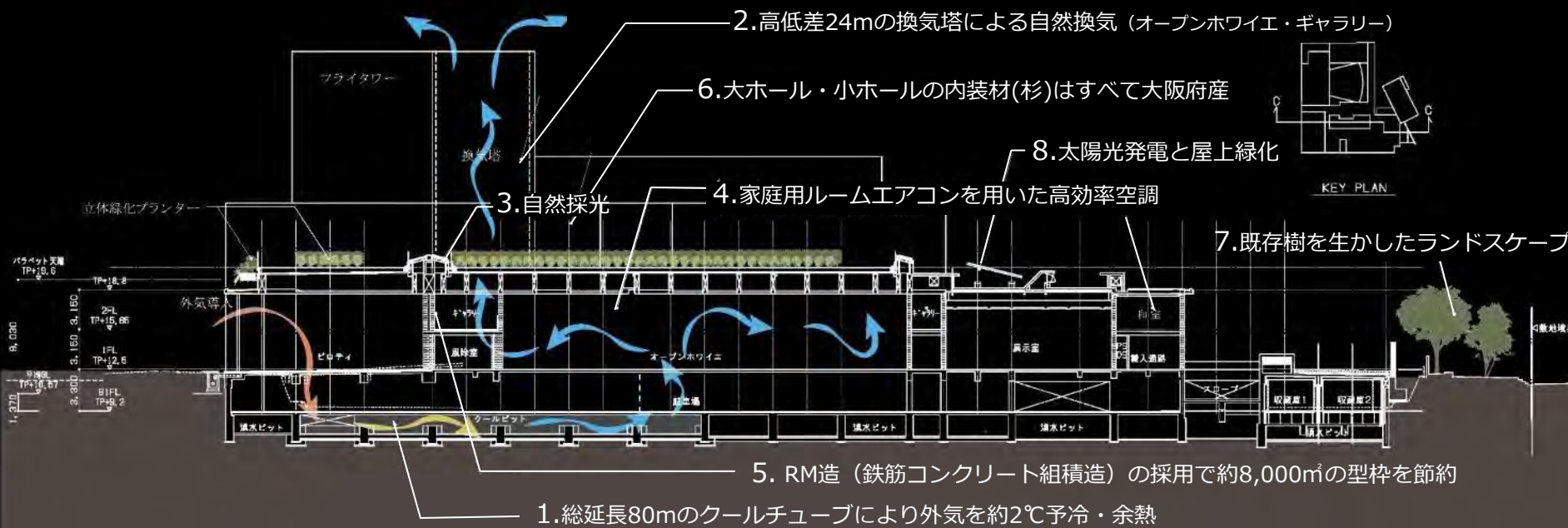
実物大のマダカネツメの化石



5. どこでも美術館で博物館そして劇場

回廊ギャラリーかつ、回遊性のある一連の展示空間

ロビーコンサートが行われるオープンホワイエ廻りでは壁面の好きな個所に展示ピン（1,080mm間隔）をセットでき、取り外し可能なスポットライトを設置することで、市民は自由に壁面をキャンパスとして展示利用することができる。



1 大空間の空調負荷を約20%低減



3 壁面際のトップライト



5 型枠不要のため約8,000㎡の型枠資材を節約



7 環境へのインパクトを最小限に



2 自然換気の動力を低減



4 省エネ性能の最大化と更新性を追求



6 すべて大阪育ちの地場産資源



8 四季折々の表情を見せる20種類以上の樹種

6. 光・風・水・緑・土による環境共生

省エネルギー性能の最大化と更新性を追求

長さ80mのクールヒートチューブ（地下ピットを利用）により予冷・予熱された外気を、金属パネルの換気塔による重力換気（フライタワーの高さを利用した高低差24mの空気の上昇を促す）でオープンホワイエの隅々まで届け、心地よい室内環境を実現した。



7.無垢の杉を重ねる大小のホール

地場産の杉に包まれた、時とともに響きを深める楽器

コンパクトかつ臨場感溢れる扇形の客席配置 大ホール（1,344席）

大ホールは間口16～20m、高さ9～11.7m（共に可変式）のプロセニウム形式で、主舞台上部には道具（幕用含む）バトンを21本備え、静音型巻取りウインチによる電動昇降運転制御（0.1～60m/min可変速制御・最大積載荷重750kg）とし多様な演出・用途に対応している。

NIKKEN

EXPERIENCE, INTEGRATED